

利尻山&礼文島山行報告

【山行日】2016年 6月 23(木)~26(日)
【集 合】野木町島田宅 AM 9:30
【費 用】マイカー1台 : 101,700円
【メンバー】 CL:鈴木、石川、岩淵、大西、
島田、渡辺

6月23日(木) 羽田空港から稚内空港へ行き、フェリーで利尻島のペンション「ヘラさんの家」へ向かう

島田宅9:30=OKパーキング 11:30=羽田空港
11:50/13:55→稚内空港 16:10=稚内港 16:40
~~鵜泊港 18:20~ペンション「ヘラさんの家」16:30

山行企画アンケートで、利尻山に登りたいという希望があり礼文島と併せて計画した。初日は羽田空港から稚内空港に飛び、フェリーで利尻島へ渡り、ペンション「ヘラさんの家」までの



移動日である。先週から天気予報がコロコロ変わり、この4日間は余り良くない予報に変わってしまった。稚内までの航空便が少なく、早割りのチケットは午後の便しか空気が無く遅いフライトになった。昼間の首都高は走ったことが少なく、時間が読めないのも、余裕を見て9時30分に島田宅を出発する。首都高は大きな渋滞は無く、予定より早く羽田空港に着くことが出来た。時間があるので、ゆっくり昼食を食べ時間をつぶす。定刻に羽田を出発し、ほぼ予定通りに稚内空港に着

いたが、稚内港へのバスの時間に間に合わない。タクシーを拾い、稚内港へ急いでもらう。フェリーのチケットを購入すると、もう1台のタクシーが到着した。急いで2階の乗船ゲートに並び乗船した。今日の稚内地方の天気は雨の予報だったが、天気は良いが風が少し強かった。船の揺れが少ない中央の2等船室に場所を取り、座って会話に花が咲く。途中から若い二人はデッキに出て、景色を楽しんでいた。我輩も後からデッキに出て、写真を撮ったりしていたら、全員がデッキに出て来たので写真を撮る。

利尻島に近づくと、利尻山の頂上まではっきり見え、海上に浮かぶ美しい山に歓声が上がった。





鴛泊港に入港し、フェリーを降りてターミナルの出口に行くと「へらさんの家」の迎えが来ていたが、他の客が居ると言うので我々は歩いて行くことにする。港から5分くらい歩くと「へらさんの家」に着く。チェックインが遅いので、直ぐに夕食かと思いきや「夕食は19時30分からです」と言われ風呂に入る。ここの風呂は温泉で、広い湯船から海が見え絶好のロケーションである。食事も地元の食材を厳選し、こだわりの食事で人気の宿と評判だ。

期待して食堂に行き、まずはビールとお酒をオーダーする。

最初はホタテの焼き物を美味しくいただくが、次の料理がなかなか出てこない。今日は泊り客が多く、マスター一人で調理するので追いつかない様子。

飲んでいる4名は許せるが、飲まない2人は食べるものが無く手持無沙汰で不満顔。

結局、夕食は1時間20分かかり、我輩も飲みすぎてしまった。

明日の出発が早いので、部屋に戻るとすぐに床に就いた。

6月24日(金)

へらさんの家 4:30～北野野営場 4:40/5:00～第一見晴台 7:00～長官山 8:00～避難小屋 8:30/8:45

九合目 9:30～利尻山 10:25/10:40～九合目 11:20～避難小屋 11:50/12:15～長官山 12:35～

第一見晴台 13:40～北野野営場 14:45/15:20＝へらさんの家 15:30

3時30分に起床し、パンを2個食べて準備し4時30分に車で登山口へ送ってもらう。



登山口に到着して驚いた。駐車場は広く整備され、トイレは水洗のウォッシュレットで、ビジターセンターが併設されていた。キャンプ場もコテージ風の建物が2棟建ち、キャンプサイトも綺麗に整備されていた。車を降りると、なんと小雨が降っている。

天気予報は、一日雨マークが全くなかったのに。

気を取直し、トイレを済ませ出発の準備をし、レインウェアの上衣を着て出発する。

広い石畳の道を緩やかに登ると、やがて日本名水

百選の一つ「甘露泉」がある。「甘露泉」のすぐ先でポン山、姫沼方面への散策路を左に分ければ長官山までは一本道だ。この先は鬱蒼としたトドマツの針葉樹林が、五合目付近まで続いている。六合目の第一展望台で休憩をとり、朝食を食べてない人は朝食を摂る。ここから先は灌木状になったダケカンバやミヤマハンノキの茂みの中に登路が続いている。マイズルソウやゴゼンタチバナ等の



花も見られ、I渚さんの花の解説が賑やかに始まった。



登るにつれ傾斜は増し、六合目から七合目にかけては九十九折れの登りとなる。七合目先の岩の露出した第二展望台で休憩し、メロンを食べレインウエアーのズボン履いた。

八合目の長官山は雨の為スルーし、ここから下った所にある避難小屋で大休止する。

避難小屋は大勢の登山者が休んでいて、山頂まで登るか迷っていた。我隊の皆さんは登頂のモチベーションは高く、風が無いので山頂まで登ることにする。I渚さんは2回目のトイレタイムをとる。

避難小屋から九合目までは少し明るくなり、花も次々と顔を見せてくれるので楽しく登ることが出来た。I渚さんのあやしい花の解説を聞きながら九合目に着いた。ここでまたI渚さんがトイレタイムをとり、S田さんは下りに体力を温存するためここから下山する。九合目を過ぎると、右側斜面は火山灰と岩礫のガレ地となる。

以前登った時は火山礫のザレた登山道で、三步登ると二歩下がるような歩きにくい道だったが、鉄網や樹脂の筒で階段状に整備されとても歩き易くなっていた。地元の皆さんに感謝、感謝で手を合わせる。急登に息が切れ、途中立ち休みを取り呼吸を整える。そこから一気に登ると、利尻山山頂に出た。

山頂の大山神社に手を合わせ、記念写真を撮って休憩をとる。山頂の西側斜面はエゾノハクサンイチゲの群落があり見事だった。



本来なら360度の大展望が得られるが、雨で展望は得られなかったが悪天候でも山頂を踏める力は、これからの山行に大いに自信を深めた。山頂からは来た道に戻り、避難小屋で昼食を食べ登山口に向かった。下山は足取りも軽く、超早いペースで下って行く。途中、七合目のトイレブースでI渚さん七回目のトイレタイム。すべて自分で持ち帰るので、「重い、重い」とグチをこぼしていた。やっと甘露泉まで戻り、甘露泉を飲んでペットボトルに水を詰替える。

野営場に戻り、登山靴やレインウエアーの汚れを洗ってから迎えの車をお願いする。

ペンションに戻り、温泉にゆっくり浸かって疲れを取り冷えた体を温める。夕食前に軽くビールを飲み、19時から夕食を食べる。本日も料理のテンポはスローペース。料理は美味しいが、出てくるタイミングが遅いのでイライラするらしい。我輩はお酒を飲んでいるのであまり気にならないが……

1時間30分掛けて、ゆっくりとディナーを楽しみ至福のひと時であった。

6月25日(土) 鷺泊港から礼文島香深港に渡り、スコトン岬から高山植物園を見学し「うすゆきの湯」で温泉に浸かり、今宵の宿民宿「やざわ」へ

へらさんの家 8:40～鷺泊港 9:20～香深港 10:20～民宿「やざわ」10:30＝スコトン岬 11:00/11:15

＝高山植物園 11:30＝食堂 12:00/13:00～うすゆきの湯 13:10/15:00＝民宿「やざわ」

朝6時に起き、全員でペシ岬へ散歩に出かける。風が強いが薄日が差しまざるの天気であった。



ヘラさんの家は、ペシ岬遊歩道の登り口にある。玄関を出てすぐ左に進むとペシ岬への道に繋がる。

登り始めると、他の宿の宿泊客も大勢登って来た。途中の平らな展望所で写真を撮る。

ここからは急坂を登るようになり、足元も岩で登りづらくなる。頂上に着くと360度の展望で、利尻山がひときわ大きく見える。

利尻山の山頂には少し雲が掛かっているが、山全体ははっきりと見えていた。

風が強いので来た道を戻ろうとすると、「反

対側の灯台に向かって降りると、シシウドの花がきれいですよ」と声を掛けてくれたので、灯台に向かって降りて行く。階段状の道を降りて行くと、シシウドの花が群生し、青い海と白い灯台がマッチし素晴らしい風景が見られた。

ペンションに戻り、楽しみにしていた朝食タイム。ご飯がとても美味しく、メバルの焼き魚も美味で納豆が付いていたのが嬉しかった。朝食後支度をして鴛泊港に向かう。鴛泊港からフェリーで礼文島に向かい、香深港で降り民宿「やざわ」へ向かう。「やざわ」でレンタカーを借り、2台の軽自動車に分乗してスコトン岬に向かった。風がますます強くなり、車



が軽では飛ばされるのではと心配になる。スコトン岬に着くと猛烈な風で、土産店まで行くのも大変。スコトン岬の先端まで行き、写真を撮るが飛ばされそうで大変。散策は諦め、車に戻って高山植物園に向かう。植物園に向かう途中から雨が降り出し、植物園の傘を借りて見学するが風で傘が壊される。仕方なく植物園の建屋に展示された礼文アツモリソウの前で写真を撮りフェリーの港に向か



った。港の前にある食堂で、昼食を食べることにする。

皆さん好きなものを食べ、午後の桃岩の散策は諦め、宿でもらった「うすゆきの湯」の券で温泉に入ることにする。温泉にゆっくり浸かり、休憩所でのんびりくつろいで時間を過ごす。

3時過ぎに温泉を出て、コンビニで打ち上げのお酒とおつまみを買出し、宿に向かった。

「やざわ」に着き、部屋の説明を受けて一番広い部屋に集合し宴会が始まった。利尻山登山の話や、ペンション「ヘラさんの家」の夕食の話で盛り上が

り、「やざわ」の我々の部屋の観音開きのトイレにI瀏さんは大笑いし、しばらく転げまわっていた。宴会が終わりいよいよ「やざわ」の夕食が始まった。ウニが皿一杯出て、刺身も大きな切り身が大皿いっぱい並ぶ。タコのしゃぶしゃぶもお代わり自由で食べられる。徳ちゃんとI瀏さんは大喜びで、料理はこのぐらい並ばないと食べた気がしないと食べまくる。

ウニもこれだけ食べれば、しばらくは食べなくても良いと大満足の様子。

皆さんお腹いっぱい食べ、大満足で床に就いた。

6月26日(日) 香深港から稚内港に渡り、ノシャップ岬や宗谷岬を観光後、稚内空港から羽田空港へもどり、野木町島田宅へ帰着

民宿「やざわ」8:00～香深港 8:10/8:45～稚内港 10:40＝ニッポンレンタカー→11:00/11:10＝ノシャップ岬 11:30/12:00＝海鮮市場 12:15/13:00＝宗谷岬 13:30/13:50＝ニッポンレンタカー→14:00/14:10＝稚内空港 14:20/16:30→羽田空港 18:30/18:40＝OKパーキング 19:00＝島田宅 21:15

心配したフェリーも、今日は出航するという情報に皆安堵する。今朝は、昨日の午後の便が欠航と



なり、急遽「やざわ」に泊った女性のグループが加わり賑やかな朝食となる。テーブルの真ん中に、ホッケのチャンチャン焼きがドーンと出て、ワカメの酢の物やフキの煮物、生卵や納豆などが並び、どれから食べるか迷ってしまう。焼きながら食べるホッケのチャンチャン焼きは、特製のミソタレが絶妙でとても美味しい。ご飯も美味しくお代わりして納豆で食べた。8時に「やざわ」を出てフェリーターミナルへ行くと、すでに長蛇の列が出来ていた。お土産を

買う時間があると思っていたが、仕方なく列の最後尾に並んだ。昨日の午後の便が欠航したため、その乗客が今朝の便に回って来た為混雑するようだ。列は我々の後ろにどんどん伸び、係員が来て階段の方へ曲がって並ぶよう指導する。やっとフェリーが到着し、乗客が下船した後乗船する。埠頭では礼文名物のユースホステルのスタッフによる見送りの歌が聞こえてきた。フェリーに乗船し場所を確保すると、若い二人はその見送りの様子を見に出て行った。海はうねりが強く、大きく上下に揺れるための嬢とI瀏さんは参った様子。

やっと稚内港に着き、二人はホッとした様子。

ニッポンレンタカーに迎えに来てもらい、借りる手続きを済ませ出発する。最初に宗谷岬に向かったが、効率が悪いのでノシャップ岬に向かうことに変更した。稚内市街からノシャップ岬までは20分くらいで着く。ノシャップ岬の標識とイルカのモニュメントの前で写真を撮り、道路を挟んだ反対側の店でお土産を買う。そこから稚内市街にもどり、海鮮市場で昼食を食べお土産を買う予定だったが、女性陣は船酔いと朝食の食べすぎで食べられないと言う。



男性二人で大きな食堂に入り、海鮮丼を美味しくいただいた。昼食後市場で買い物をして、宗谷岬に向かった。宗谷岬への道は海岸線を走り、道路の両側にエゾカンゾウやセンダイハギの花が咲



きとても美しい。山側の丘にはエゾシカが姿を見せ、キタキツネが痩せ細った体でトボトボと歩いていた。北海道の最北端は、まだまだ手つかずの自然が残っているのだなと実感できた。

宗谷岬に着き、まずは田中陽貴君が二百名山踏破に向けて出発した宗谷岬の碑の前で写真を撮り、続いて間宮林蔵像の前で写真を撮る。お土産屋の奥に、今年の流氷を冷凍保存した部屋があり見学する。今年の流氷の中に、アザラシやキタキツネ、アシカなどのはく製が展

示され記念写真を撮る。

部屋の中は超寒く、冬用の上衣を着ていても5分と入っていられなかった。宗谷丘陵の遊歩道も歩きたかったが、風が強くて寒いので少し早い段階で稚内空港へ向かった。空港で最後の買い物をして、定刻に出発できた。羽田空港にも予定通り着き、OKパーキングの迎えも順調で我輩の愛車に乗り込む。

首都高も渋滞が無く、途中蓮田SAで夕食を食べ予定より早く島田宅へ戻ることが出来た。

今回は天候に恵まれず、利尻山や桃岩の絶景は見られなかったが、4日間とても楽しく満足の山旅になった。

若い二人は、また行くチャンスがあるでしょう。

ぜひもう一度訪れて、利尻山からの絶景と桃岩のお花畑を堪能してほしい。

